（別紙様式例3）

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和2年3月1日

事業所名：レインボーキッズ・メソッド2（西条）

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	43%	43%	14%	スペースを区切るなどして個別の対応ができるように工夫している。	64%	29%		7%	少し手狭に感じる。	限られた空間を工夫して、児童がゆったり過ごせる環境をつくる。
	2	職員の適切な配置	14%	86%		利用児童によって変動がある。	72%	7%		21%		できるだけ、行事や活動内容に応じて人員の配置に配慮できるように努める。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	43%	29%	28%		78%	4%		18%	視覚的に分かりやすい環境になっている。	今後も研修会や学習会などを通して知識を広げて配慮した環境を整えていく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	71%	29%			89%	7%		4%	個別で過ごせられる空間がある。	引き続き、日々の掃除や整理整頓を頻繁に行い、遊具の消毒等も行っていく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	14%	72%	14%							
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	29%	28%	43%							
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	86%	14%		法人内研修や学習会を行っている。						感染対策、接遇、支援に対する学習会等を全スタッフが受けられるように機会をつくる。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	57%	29%	14%		93%	7%			保護者の話をよく聞いてくれている。	個々の支援課題が違ってくるので、その児童らしさを大切にして、利用者のニーズを引き出し、それを計画書に反映できるように努める。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	29%	71%			86%	7%		7%	周りに邪魔されない空間があり、本人が安心できる場所が確保されている。	計画書等の書式の見直しや他の機関の取り組みなども参考にしながら、より良いものをつくっていく。
	3	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	57%	43%								社会と利用者のニーズの両方を考えながら作成できるようにする。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	29%	71%		全スタッフで共有ができているとは思わない。	93%	4%		3%	色々な活動が計画され、楽しめるようにしている。	スタッフ間で支援計画の共有を行い、一貫性がある支援を行う。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	29%	71%								スタッフ間での話し合いの場をたくさんつくっていく。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	29%	71%			68%	21%		11%		支援の積み重ねを行い、経験値を上げていく目的とそうでない目的との区別を行う中で、固定化しない工夫とステップアップを考えて実施していく。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	43%	43%	14%							支援計画を確認しながら、具体的な支援をかかげて、実践したことを振り返る機会もつくって次に活かせるようにする。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	100%									朝礼などを継続して行いながら、業務日誌などに確認事項を記載し、振り返りができるようにしていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	57%	43%								終礼などを継続して行い、振り返りを行う中で今後の支援についても検討する。また、スタッフ間で共有するために日々の業務の中で話し合っていける職場環境を作っていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	43%	57%								気付きを大切にして、実際に行った支援を振り返って検証することで色々な意見を反映して次の支援を実施する。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	71%	29%								
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	57%	43%								管理者が中心となって、積極的に関係機関と連携を行い、適任者を考えながら会議へ関わるようにする。
	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）**地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	14%	86%								

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
関係機関との連携（続き）	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）**子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	14%	72%	14%							
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有		100%								お互いに顔を合わせる機会をつくって、コミュニケーションを積極的にとって関係性を築いていく。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供		100%								会議だけではなく、講演会や研修会などに参加して、連絡をとりやすい環境をつくっていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	14%	57%	29%							専門機関とつながりが持てるように、自分たちが行ってる取り組みに関して発信していく。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	14%	43%	43%		32%	11%	14%	43%	デイサービスでは、特に障がいのない子との交流は求めていない。学校で交流があるので。	利用者からのニーズを考えながら検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営		43%	57%							将来的な展望もふまえて検討していく。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	43%	43%	14%		96%	4%				継続して丁寧な説明を行っていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	43%	43%	14%		86%	14%				利用者と顔を合わせる機会をつくって、支援内容を伝えながら説明を行えるように努める。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施		86%	14%		61%	21%		18%		まずはペアレント･トレーニングの知識を身に付け、講習会などを通じて実践できるように取り組む。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	57%	29%	14%		89%	11%			あまり利用していないので、何とも言えないが、話はできている。	子どものことを優先して考えることをお互いに理解し、意見を言いやすい関係性を築けるように努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	43%	29%	28%		82%	11%		7%		日頃から利用者との関係性を築けるようにコミュニケーションを取りながら、情報提供をお互いにとれるように努める。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	14%	14%	72%		14%	14%	29%	43%	・保護者などが参加できるイベントなどがあると嬉しい。 ・デイサービスでは、特に必要ではないのでは？	現在の支援内容と今後の支援内容を考えていきながら前向きに検討していく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	43%	57%			64%	4%		32%	その都度、連絡をもらっている。	できだけ迅速に対応できるように、報告・連絡・相談を徹底し、担当者を中心に速やかに対応を行う。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	43%	57%			86%	7%		7%		日頃からの関わりを大切にし、顔を合わせる機会をつくって情報交換を行う。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	43%	57%			79%	7%		14%		
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	100%			スタッフの意識を維持するための工夫が必要だと感じている。	86%	4%		10%	ブログのお弁当の写真は、できればやめてもらいたい。	個人情報について、再度スタッフ間でも話し合い、個人情報の取り扱いについての項目を再設定し直す。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	14%	86%			64%	4%	7%	25%		今後、どのように発信していくか工夫をしていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	86%	14%			71%			29%	避難訓練など、活動の中で取り入れてくれている。	訓練の定期的な実施と実施内容について、口頭だけではなく他の方法も検討する。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
非常時等の対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	29%	71%								継続した委員会の話し合いなどを実施し、関係機関との連携を深めながら情報共有を行っていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載		86%	14%							
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	29%	57%	14%							
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	100%									積極的な取り組みをスタッフが行えるように工夫し、ヒヤリハットの意味理解の徹底をしていく。